IRON CLUB アイアンクラブ

第196号

令和6年4月

皆様の培った経験を生かして社会貢献をしませんか？

織田 文雄

私は現在、一般社団法人ディレクトフォース（DF）という団体に属しています。DFは、2002年に当時の有力財界人を発起人として設立され、「社会貢献と自己研鑽」「企業の育成・成長支援」「交流・交友」をその使命としています。現在、会員の平均年齢は73歳、会員数は約600名になり、ビジネス界の多岐に亘る分野で培われた実績と洞察力を備え、高度な専門知識とスキルを持つ人材を数多く抱え、その活動範囲は年々拡がっています。

今年の10月25日の会員総会では三村理事長に講演を行って頂きます。

ＤＦの概要をご紹介したいと思います。お読みになりご興味を示された方、入会をしてみたいと思われた方はぜひ織田までご連絡下さい。

「教育支援活動」

ＤＦの原動力は、社会への貢献です。その中でも特に大切にしているのは、未来を担う人材への教育支援です。活動は小学校から大学生まで広範囲に亘り、講師を派遣し、授業を行っています。

なかでも小・中学生を対象にした理科実験グループの活動（理科実験出張授業）はその代表例です。コロナ禍ではその数は減少していましたが、コロナ後はその評価が高まり、年を経る毎に増加しており、その回数は昨年、関東圏を中心に180回を超える程になっています。現役時代に技術系の仕事に従事してきた経験豊富な80名程が中心となり、「子どもたちに理科を好きになって欲しい」との思いで、全て手作りで準備をして授業に臨んでいます。現在、「音」「磁石」等26のテーマを持ち、現地に出向いて授業を行っています。メンバーは子どもたちの驚きや喜びに接したときの満足感が金銭にも勝る”最高の報酬“になると言っています。

「企業支援活動」

DF会員の経験や知見、人脈を活かして主に中小企業・ベンチャー企業に様々な支援活動を行っており、現在、約60社の企業を支援しています。

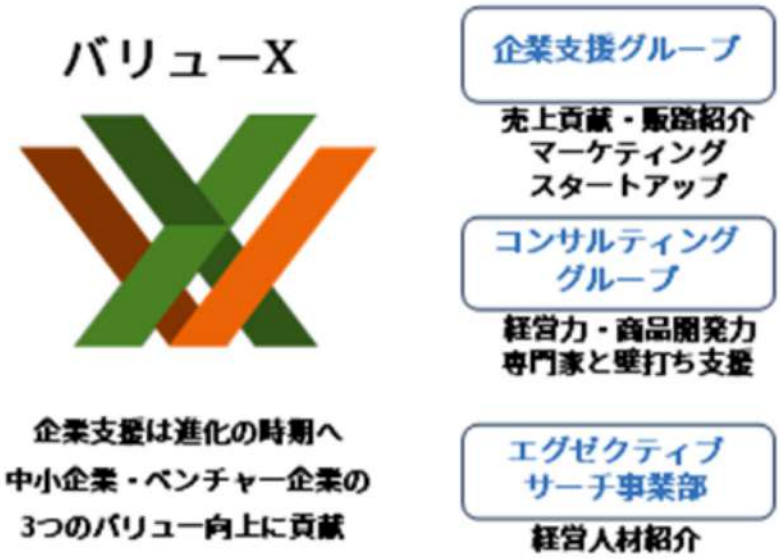
中小企業・ベンチャー企業の中には優れた技術を有しているものの、事業を立ちあげて間もない為、販路開拓に苦戦している企業があります。そうした企業にはＤＦ会員の人脈を活かしその企業の特徴を活かせる大手企業を紹介し、販路拡大を行い、営業支援を行っています。長年支援してきて、上場に至った中小企業もあり、その活動は大いに評価されています。

又、規模は大きくなるものの企業内部の管理体制・ガバナンス等が不十分な中小企業・ベンチャー企業には経営者とミーティングを持ち、経営相談・経営指南を行っています。

これらの活動は基本的にボランティア活動ですが、リーズナブルな価格で業務委託契約を締結しており、これがＤＦの財政を支えています。

中小企業・ベンチャー企業の活躍はこれからの日本経済の発展には欠かせない事は周知の通りです。その一助になればとの思いでメンバーは日夜活動をしています。

又、最近、入会される方は再就職の希望をお持ちの方が増えております。DFでは有料職業紹介事業の免許を取得しており、そうした方々への再就職支援も行っており、コンスタントに再就職される方がでております。



「地域デザイン総合研究所」

約20年にわたり積み上げた、教育と企業支援の社会貢献を活かし、2024年より本格的に地域デザインの活動に本格的に着手致します。

少子高齢化など日本を取り巻く環境は厳しさを増し、特に地方においては市町村の合併に見られるように一段と厳しさを増す状況にあります。このような状況に対応するためDFの20年に亙る首都圏を中心としたノウハウの積み重ねを地方の活性化に寄与させたいと考えています。現在、茨城県行方市から小中学校向けの理科実験、キャリア教育の導入等の依頼がきており、実施に向けて協議を開始したところです。その他、各方面からも同様な要請がきており、現在、フィジビリティスタディを行っている段階です。

「交流・交友」

個々の希望に応じた同好会が２６あり、会員はどれかの同好会に属し、積極的に活動をしています。入会の目的はこの同好会に入る為という会員もいらっしゃいます。

更に詳しくDFを知りたい方はホームページをご覧ください。

Mail：info@directforce.org

Web：https://www.directforce.org

以 上

（第107回）歌舞伎観劇会

三月大歌舞伎

今年最初のアイアン・クラブの歌舞伎は昼夜２部制で３月２２日（金）２７名、２４日（日）３６名、合計６３名の方が参加された。今回は２４日昼の部を観劇、出し物は**「菅原伝授手習鑑」「傾城道成寺」「御浜御殿綱豊卿」**の３つの演目であった。１階はほぼ満席、コロナ後では一番の盛況で、若い方や外国人の方もいつもより多く華やかな雰囲気の中にも新鮮なものを感じた。しかし、最近、歌舞伎座の観客数の減少が取り沙汰されている。問題は観客の高齢化、団体客の減少、インバウンド需要の取り込み不足だと言われている。昨年、国立劇場で観劇した時には高校生の団体、大相撲西岩部屋からの観戦があった。歌舞伎座ではこのような企画は困難だと思うが若者向けの役者・演目も検討する時期にきているのかもしれない。インバウンドに関しては公演時間の長さ・言葉の壁があり、リピーターが増えないという現実がある。歌舞伎座でも夜の部で短い時間の公演を企画したり、英語のイヤホンガイドの貸し出し等対策を取っているようだが、日本の伝統文化を海外に喧伝するためにもデジタル面での活用・充実等様々な面でもう一工夫があって良いのではないか。

「菅原伝授手習鑑」寺子屋

延亨3年（1764年）に大阪竹本座で初演された人形浄瑠璃で、菅原道真とその政敵である藤原時平（中村萬太郎）にそれぞれ仕える三つ子（梅王丸・末王丸・桜丸）の物語である。末王丸（尾上菊之助）だけが敵方藤原時平（中村萬太郎）に仕えている。寺子屋を営む武部源蔵（片岡愛之助）は恩義のある菅原道真の子・管秀才（赤星東吾）をわが子と偽り匿っている。しかし、そのことが敵方に知られてしまい、苦悩した源蔵は寺子屋入りしたばかりの小太郎（尾上丑之助）の首を身代わりに差し出す。首の検分は秀才の顔をよく知る末王丸でその首を見て「間違いない」と確認して立ち去る。実際は末王丸（尾上菊之助）は自分の息子・小太郎（尾上丑之助）を寺子屋に入学させておき、源蔵に秀才の身代わりとして殺させたのである。

最大の見せ場は末王丸が首を確認する場面で、自分の子供の首と確認しながら横で見守る時平（中村萬太郎）の家来に気づかれないように動揺を隠し、管秀才（赤星東吾）に間違いないと言い切る演技である。秀才（赤星東吾）の身代わりとはいえ、幼い命を奪わらなければならない源蔵（片岡愛之助）とその妻戸浪（坂東新吾）夫婦。忠義とはいえわが子を身代わりに差し出した末王丸（尾上菊之助）とその妻千代（中村梅枝）夫婦。二組の夫婦の悲劇は時代を超え人々の胸をうつものがある。

四世中村雀右衛門十三回忌追善狂言「傾城道成寺」

傾城清川（中村雀右衛門）は古刹、道成寺で僧安珍（尾上松緑）と出会うが、安珍（尾上松緑）が、実は平維盛（尾上松緑）であることが分かる。かつて二人は恋人同士であり、清川（中村雀右衛門）は昔、安珍（尾上松緑）に捨てられた清姫（中村雀右衛門）の亡霊だった。恋の怨念にかられた清川（中村雀右衛門）は蛇体と化し、安珍（尾上松緑）を苦しめる。

傾城清川実は清姫の霊…雀右衛門

白川の安珍実は平維盛…松緑

道成寺に伝わる清姫安珍伝説は広く世間に流布しており、所謂、「道成寺物」は歌舞伎界においては女方を演じる大曲であり、今回の「傾城道成寺」もその踊りが観客を盛り上げていた。

今回は四世中村雀右衛門十三回忌追善狂言として上演されているが、清姫を演じる中村雀右衛門丈に2016年のアイアン・クラブの歌舞伎観劇の際に、ご縁があり楽屋を訪問する機会を得た。その時、歌舞伎の楽しみ方について「読んで字の如く歌あり、踊りあり、技あり。どこから入られても結構です」と仰っていた。今回も「傾城道成寺」の優雅な踊りを堪能した。

元禄忠臣蔵「御浜御殿綱豊卿」

幕開けは、後に6代将軍となる徳川綱豊卿（片岡仁左衛門）が催す浜御殿での「浜遊び」の場面である。昨年11月にアイアン・クラブの自然観察で行った浜離宮恩賜公園であり、参加された皆様と共に眺めた中島から見た風景が舞台一面に展開していた。

次の将軍職と目されるが、本心を隠しなるべく政事には関心がないように振るまう綱豊（片岡仁左衛門）。一方、主君浅野内匠頭の仇である吉良上野介への仇討を密に企む赤穂浪士富森助左衛門（松本幸四郎）。助左衛門（松本幸四郎）は綱豊（片岡仁左衛門）の寵愛を受ける妹のお喜世（中村梅枝）と御佑筆江島（片岡孝太郎）の計らいで「浜遊び」への隙見を許され、綱豊と対面する機会を得た。浅野家再興を依頼されている綱豊（片岡仁左衛門）は、再興されれば仇討が出来なくなることを危惧しており助左衛門の本心を探ろうとする。助左衛門（松本幸四郎）も綱豊（片岡仁左衛門）は実は将軍職を望んでいるのではないかと迫る。二人がお互いの本心を探りながら繰り広げる長台詞の応酬が公演最大の見どころである。仁左衛門・幸四郎が相手を立てながらのがっぷり四つの見応え充分の舞台であった。３月の日経新聞の「歌舞伎」で歌舞伎評論家の小山雄嗣氏は「真山劇の精髄を仁左衛門が体現。幸四郎が懸命に食らいつき緊張感が劇場をひとつにした」と評している。

当時の江戸の庶民にとって赤穂浪士の件は一大関心事で、どちらかと言えば討ち入り期待が優勢。幕府は朝廷や庶民の動向を気にしながら浅野家再興をすべきか否か悩む。内閣支持率を気にしながら政策を立てる現在のどこかの状況に似ている気もしてきた。

（織田 文雄・記）

令和6年4月　発行　アイアン・クラブ　事務局

〒103-0025　東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
（鉄鋼会館内）
☎03-3669-4825
e-Mail：ironclub@ironclub.jp
URL:https://www.ironclub.jp